

おかあさんのかみなり

今日は、北九州市立文学館が平成三十年度に募集した第九回「あなたに愛いたくて生まれてきた詩」コンクールの受賞作品の中から、北九州市小倉北区の小学三年生、小田孝太郎さんの『おかあさんのかみなり』という詩を紹介いたします。本人の朗読でお聴きください。

『おかあさんのかみなり』

北九州市立足立小学校三年 小田孝太郎

おじいちゃんから むかしは
こわいものといえは
地しん かみなり 火事 おやじ
と教えてもらった

ぼくが こわいものといえは
かみなりを落とすときのお母さん
ああ 今日もかみなりが落ちる
テストが返ってきたからだ

学校から わざとゆつくり帰った
大へんなことになっていた
お母さんが ぼくの前に立った
「おごられるから帰りたくなかった。」

正直に話した。
はげしいかみなりが落ちるぞで
と思ったとたん

げゆうと力いっばいだきしめて
いっ言した

「おじいばかりでごめんね
生きた心地しなかったよ

勝手にいなくならないこと
でも帰ってきてくれてありがとう」

お母さんのやさしいかみなり

ぼくだけに落ちるかみなりも
わるくないな

いかがでしたか。

孝太郎さんは水泳がとつても得意な男の子です。でも国語は少し苦手みたい。お母さんが今日の国語のテストの点数を見たら、大きなかみなりが落ちるに違いないと思っただよっです。

少しでもその瞬間を遅らせたくて、実はその日、孝太郎さんはわざと遠回りをしたんです。いつもは寄り道しない公園にも行って時間をつぶしたんです。だから、家に着いたころには日が沈んで暗くなりはじめていました。

すると家では意外なことが起こっていました。なかなか帰ってこない孝太郎さんを心配して、ご近所の人が集まっていたんです。孝太郎さんの姿を見つけて、お母さんが駆け寄ってきました。孝太郎さんが「おごられるから、帰りたくなかった。」と正直に伝えると、待っていたのはお母さんの優しい言葉でした。

「おごってばかりでごめんね」

「帰ってきてくれてありがとう」

心配でたまらなかつたお母さんの心からの気持ち。その日のかみなりは、孝太郎さんを温かく包み込みました。

では、また。